



Green Creative Inabe

街づくり・ 地域デザイン・ 都市設計

地域活性化、街づくりにおいて、経済を軸としながら、「経済のあり方」と「社会のあり方」の双方を絡め、地域をデザインすることは、とても重要なことです。

社会の側からではなく、私たちの暮らしの側から地域デザインを考えると、「経済のあり方」とは、「労働のあり方」であり、いかに仕事に働きがいを実感できるかがテーマとして見えてきます。一

方、「社会のあり方」とは、「暮らしのあり方」であり、いかに地域との関わりに暮らしの豊かさを実感できるかがテーマとして見えてきます。

「労働のあり方」と「暮らしのあり方」を考えると、地域を都市から見のではなく、農村や地域そのものから見ると、生業（なりわい）と共同体（コミュニティ）がキーワードとして浮かび上がってきます。



労働のあり方

資本主義の経済理論に大きな影響を与えたとされるイギリスの経済学者ケインズは、資本主義は貨幣が軸となった経済であるが故に、貨幣が人を支配し、効率的に貨幣を増すことを目的とする投機的活動が始まることを見抜きました。仕事が生活のための手段、収入を得るための

手段に特化したならば、人は仕事を通じて得ていた社会の中での居場所や役割を見出せずに、「孤」となる危険性があります。

私たちは社会との関わりの中で、自らの存在を自覚します。かつて、人々は労働を「仕事（地域や家族のための労働）」

と「稼ぎ（貨幣を稼ぐための労働）」に分けつつ、仕事を通じて地域社会と関わり、稼ぎを通じて自らを高めていました。

人々は「仕事」と「稼ぎ」が一連となって成立し得る、自在な存在としての「労働」を理想とし、そのような労働に働きがいを感じていたと言えます。



生業 (なりわい)

かつて、自由という言葉は「勝手気まま」という意味でも用いられていました。どこかエゴイスティック、つまり、自分本位な意味を持つ言葉でした。

しかし、社会の近代化と共に、社会契約的な自由の権利の主張には、義務の実行が伴うことを人々は学んできました。そのことにより、「孤」となる危険性を回避してきました。

現在では、「自由」という言葉は「自在であること」という意味で用いられています。あくまで、個人を主体に考える勝手きままな自由から、他者との関係の上に成り立つ「自由」へとニュアンスが変化したことが読み取れます。

つまり、他者より良い関係を築き、他者の自由を担保した上で自己の自由を獲得する「自在」の観念を指しているよ

うです。それは、あたかも自然界における植物相、動物相（上位相、下位相の各々が関連し合い、各々が存在を計っている）のようです。

まずは、地域（社会）との関係（他者との関係）をより良く結び、他者の自由を担保しながら、自己の自由を獲得していく労働のあり方は、労働の領域を超え、自らの生き様までを問うこととなります。それ故に、自らを高めることに努力し、労働を通じて働きがいを感じることは、地域の中で「孤」としてではない居場所を持つこととなります。

地域を都市からではなく、農村や地域そのものから見る地域デザイン（街づくり）には、生業（なりわい）づくりが、大変重要となります。

暮らしのあり方

旧家を訪れると、神棚と仏壇が同居し、家人は違和感なくその双方を祭る、といった光景を見ます。農山村を歩けば集落ごとに神社があり、いくつものお寺もあります。

また、農山村には、お地蔵様や観音様、水神様もあります。人々は、氏神に厚い信仰を寄せ、夏秋の収穫毎に祭礼を怠ら

ず、伝統・文化と共に、大切に受け継ぎ守っています。

そこには、教義ではなく、もっと情緒的なものが感じられます。

また、先祖がいる、守られているといった感覚も強いようです。この考えの背景には、代々この地に暮らす家の存在があると思われま





かつての自然村（村落）は共同体であり、生産（農事）を基礎として、地縁や血縁による結合が核となり、成り立っていました。（季節的臨時共同作業や結（ゆい）と呼ばれる建屋等の建設の共同作業等）加えて、共同体の中に暮らすことを前提とした生活感が根付いています。

過去、自然村という共同体は、排他的な閉鎖性や内部における上下関係、個人の自由性を妨げるといった面を持つことが、度々、指摘されてきました。

しかし、昨今では都会に住む若者を中心に、農村や自然豊かな土地で、新たな生活スタイルを求め地方への移住がみら

れるようになりました。

このような、個々の生業（なりわい）化を通じて、自在（自由）な人々が、地域の中で結びつきます。定住を伴う共同体の形成は私たちが感じる暮らしの豊かさの今後のあり方だと思われます。この流れは、地域が本来持っていた共同体を再評価することにつながります。定住を伴う新たな共同体（コミュニティ）の形成には社会の軸である経済、とりわけ地域の中で自立・循環しうる取り組み、すなわち、生業（なりわい）づくりが重要となります。

共同体 コミュニティ



GCI

これまで述べてきたことに対して問題意識を持ち、それを前提としていなべの街づくり、地域デザイン、都市設計を考えてきました。そこから生まれた活性化事業の方向性、理念、コンセプトを表した言葉がG C I（グリーンクリエイ

ティブいなべ）です。グリーンとは市民が評価している地域特有の資源で、豊かな自然や里山、農やその延長上にある食などのことです。アウトドアライフやアート・クラフトへの広がりも想定しています。クリエイティブとは、材が財と

なり得る価値を作り出す営み（経済）を通じて、各分野の質を高める人々が集まり、育つ、暮らす街をつくる、というものです。だからこそ、生業（なりわい）と共同体（コミュニティ）は、いなべにとって、非常に重要なことなのです。





PROJECT 1

ローカルセンス ショップ事業



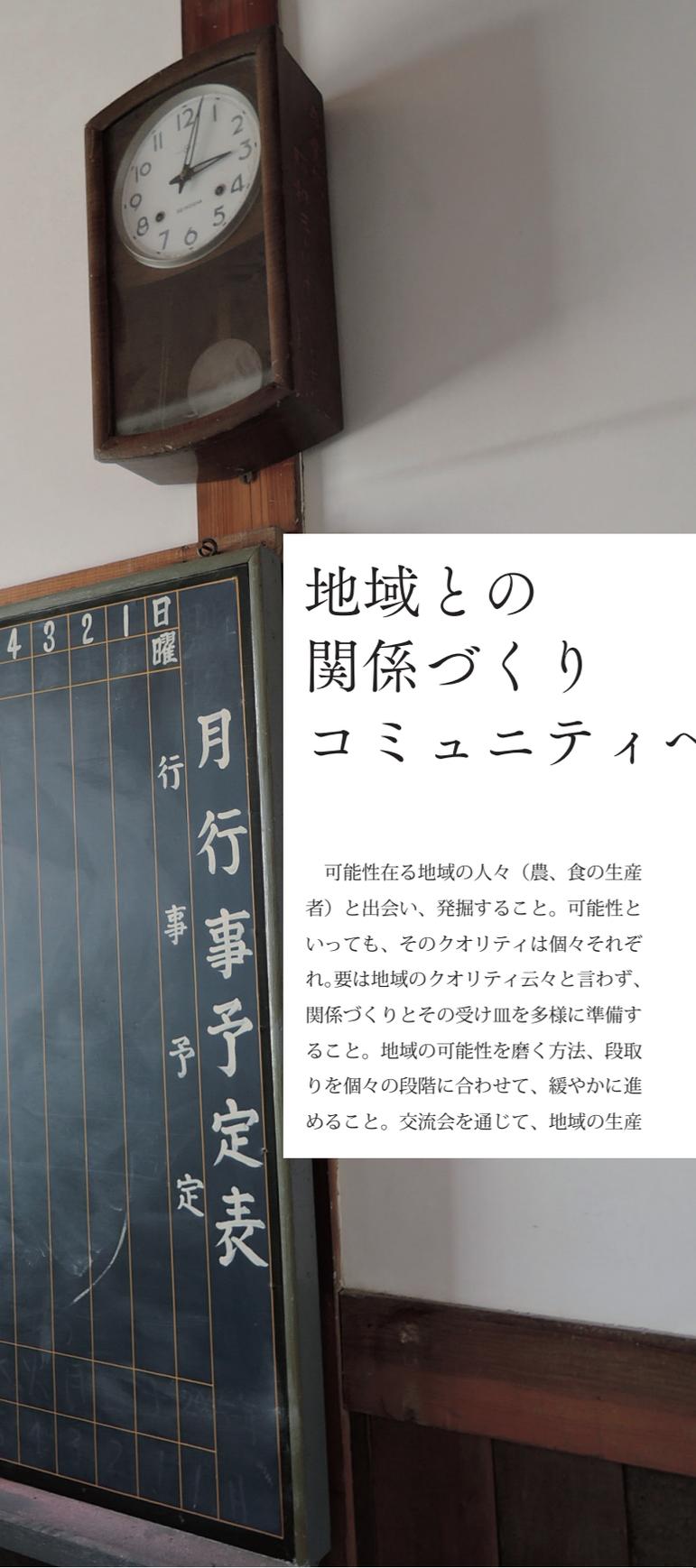
ローカルセンスを 持つ人々

PROJECT 1

GCIに共鳴し、行政、地域と協働する街づくりの姿勢に共感する。自らの生業(なりわい)の姿勢を認め合う。コミュニティを実感する。ローカル(地域的)でないなべで、生業を作る、コミュニティを作る、人を作る、そして、自らの暮らし

しを作っていく。こうしたローカルセンスを持った人々が、名古屋、大阪から集まり根をおろす、いなべ。マーケットの規模にかかわらず、自らの世界観によってマーケットを作り出せる人々。





地域との 関係づくり コミュニティへ

PROJECT 1

可能性在る地域の人々（農、食の生産者）と出会い、発掘すること。可能性といっても、そのクオリティは個々それぞれ。要は地域のクオリティ云々と言わず、関係づくりとその受け皿を多様に準備すること。地域の可能性を磨く方法、段取りを個々の段階に合わせて、緩やかに進めること。交流会を通じて、地域の生産

者と出店者が取引を継続し、協働して商品を開発している。また、市民の人々と出店者がワークショップを開催し、都市にある出店者の店舗と合同で、いなべマルシェを開催している。すでにこのような多様なコミュニティづくりが続けられている。





PROJECT 2
生業事業



チェーン店より
地縁店
生業創業

PROJECT 2

4町が合併して出来た、いなべ市。各町には規模の大小はあるものの中心地があった。これら旧中心地が、中心地たり得た過去の手法では再生の糸口すら見えない。過去の中心地の賑わいや住民との密なコミュニティ感を過大評価することも同様である。中心地には、図抜けた個性を持った店が必要である。その集まりが必要である。

それはチェーン店では出来ない。仕込

みに基づく（地域と創業者の関係づくり、アクションから開業フォローまでの一連）生業、創業が必要である。一旦、いなべを離れた人たちが、全く、いなべとは縁の無かった人たちによる創業が、ここ2～3年の間に4店起こった。こうして地縁店、生業創業、旧中心地、にぎわいの森（新庁舎ゾーン）が繋がりはじめ。

店・人・コミュニティ

PROJECT 2

街に店が出来る。店の文化（経営者、オープンまでのストーリー、イメージ等）に人が共鳴する。やがて、その店は街の拠点へとようになっていく。人がもたらす情報の発受信の場、コミュニティへとようになっていく。中心地に必要な店は、こうした店である。

いなべでオープンした新しい店では、現在様々なワークショップを開催している。ワークショップを通じて、生業を志望し、いなべで定住したい数多くの若者達との出会い、若者同志のコミュニティが生まれている。これまで無かった動きが始まっている。





PROJECT 3
GCI 事業



GCI 事業は関係づくりから始まる。社会、暮らし、街等への考え方と思想、そしてセンスを大切にするとところから、新たな暮らしの欲求をキャッチし、創ることが可能となる。その上で、経済、経営行為に乗せていく、といったクリエイティブなトップランナーたちとの関係づ

くから始まる。いなべでは、にぎわいの森（新庁舎ゾーン）の出店者たちに始まり、GCI コンセプトに共感する無印良品等、企業とのPR 協働や、いなべの木材を使い、名古屋グローバルゲート内ショップでの家具什器のデザイン、納品（いなべハンズ

といった、様々な関係づくりが進んでいる。多様なプロジェクトが生まれつつある。彼らの視線はローカルに向いている。これからは、閉じた地域へのこだわりではなく、開かれた地域へのこだわりがいなべを生かす。



GCI

Green Creative Inabe
volume 03 実践

GCI
Green Creative Inabe

volume 03 実践

発行◎いなべ市 監修・デザイン◎石黒靖敏コンサルティングアソシエイツ事務所 2018年3月

green creative inabe 



プラン・デザインから実行・実践へ。